

第一部  
暁の光

*Morning  
Light*

## 一章 曙 光

私共は死の彼方、靈の世界より、下って来ました。地上に平和と癒しと慰めを与えるために。この通信に耳傾ける者は、必ずや、今日の混迷した諸問題の解答を見出すことになるでしょう。現下の地上は余りに騒がしすぎ、人心は不安と不信と憎悪に満ちています。そこにあるのはただ迷いだけです。人々は万事を、知性かさもなくば物質の力で解決できると思いこみ、一向に英知の本源に目を向けようとしておりません。

人々が悩んでいる問題の回答は、すべて神の心の中にあります。人がもし

思いきって自己を捨て、神の心に触れるなら、たちどころにその解答を握ることになるでしょう。我々の通信の意図は、実にこの点にあります。

既に何度も述べたように、人間とは肉体であるとともに、また霊的な存在であるということ、この自覚を決して忘れてはいけません。この自覚に立ち、一日も早く靈性を開顕すること、これより肝要なことはありません。世上には多くの教えがあります。その教えの中の教え、真理の中の真理、それは靈性についての自覚です。貴方の内部には、この靈性があります。貴方の地上生誕の目的、それは実にこの靈性の開顕であります。この靈性こそ真実の子、キリスト、但し、地上生活中は、それは肉体その他の媒体に包まれて隠されていますが。

人は問題を解決するにあたり、唯物的な見地からのみこれを考えようとはしません。ここに不安の源泉があります。やがて来たるべき新時代には、人類は靈的物質的両面で、大きな飛躍を遂げるでしょう。既に多数の魂が、意識的にまた無意識的に、新時代の開拓者となるため、続々地上に生まれてきています。だから、かりに貴方の人生が名もなく賤しくても、貴方には貴方であり、果たせない使命があるのです。即ち、貴方が今日地上にあるのは、ただ自己の靈性開発のためだけでなく、特殊の目的、つまり来たるべき新時代を開拓する者の使命、このためでもあります。

人がもし、自分の成長発展だけに心を奪われず、進んで他者への奉仕にとめるなら、自然に人格は高まり、内在の神性も開顕されます。人がもし、

靈的法則に気付きこれに従うなら、自然に道は開かれます。その道は既にその者のためしつらえられていた道です。いつか天使も近付き、人はこれに歩みよって語ります。但し、心にとめてもらいたい事は、天使は天使を知り、神は神を知るということです。従って、人が内在の神性を開発しない限り、人は天使も神の存在も知ることはありません。

### 真理は貴方の内部

個人的問題にしろ世界の問題にしろ、その回答を求めるなら、静かに黙って、内心の静寂につとめなさい。微動だにしない湖水、それが貴方の魂です。もし魂が静寂を保てば、内在の神意が発動し、湖水に映る光のように、魂の水

面に、真理が素直に映るものです。静寂を守れ、自己神性を自覚せよ。人が独りで神の前に立つ時、神は語りかけます。人は自己の魂の面に映る真理を見るのです。もし人が素直でなく、我意によって解答を求めるなら、その答えは歪んだものとなります。波たつ湖水の影が歪むように、心が平和でない者の答えは常にこれであります。

人間の魂は不思議な器械です。思いのままに、沢山の放送局に波長が合わせられる受信器です。あるいは欲望と不安うずまく暗い幽界に、あるいはすべての生活が神の美の表現である境域へ、もし望むなら、太陽系の他の諸天体へまでも。人間とはまことに、天馬の羽を授けられた生きものです。しかし、これを使いこなすには、先ず羽のひらき方、無辺の美の世界へ参入する法を

学ばねばならないのです。

祈っている時、また心に神を思っている時、ふと清らかな波長に触れ、素朴な幸福感にひたる場合があります。このような清浄感は心の強さとか知力とは関係ありません。ただ上方に目を向けた純粋な喜びの心情、これにかかわっています。神の子たるもの、常にこの喜びの心情に生きねばなりません。人がもしこの喜びの秘密に気付き、生活にこれを取り入れるなら、その心持ちも容貌も一変するに至るでしょう。

自分のことを顧慮することなく、心の喜びのために、純粋な善のために、生きぬく魂は、人類に対してどんなに大きな恵みを与えていることでしょうか。彼は正しい事を愛するがゆえに正しい事をするのです。内在の霊の生命であ

る喜びの心は、善をなすことのほかに、自己を表現する方法を知らないのです。

個人の行なう一つ一つの善だけが人類を救うのです。この善なくして、人類の未来はありません。ひたすら善に生き、善をなし、善でありたいと願う人は、人類の未来にはかりしれない贈りものをしているのです。しかし、善をなすことの難しさ、まして、善のために善をなすことの。しかし重ねて強調したい、人が内在の喜びと静寂への道を歩み、生活の一つ一つに善を表現できたら、その人の人類の幸福への貢献は、本人の力を超えてはかりしれないものがあるのです。

イエスの生涯はまさにその好例でした。彼の内心の喜びと善によって、彼の身体からは、天界の靈光が放出したのです。この事はイエスに限りません。



偉大な人物なら誰にでも出来る事です。ヨガの行者達は、既にこの幸福の原理を発見しています。彼等は人類に奉仕するに当たって、別に走り廻ることをしない、神聖な靈光を、みずから進んで放出し続けているのです。

## 人類の大下降

貴方がこれから辿る旅は長い、貴方がこれまで辿つて来た旅も長いのです。人は神からほとぼしり出た火花、無意識のまま、内に神性を宿して神から出た火花です。その火花は幾多の目に見えぬ生命の境域を、現在の人間になるまで下降しました——下降につぐ下降、魂は次第に鈍重な衣を身にまといつつ、とうとう最後に、見たことも聞いたこともない重い衣を身に付けてしま

いました——それは肉体、そして彼をとりまく物的環境、こうして彼は地面に頭を低く垂れてしまったのです。

地球の実質そのものも、波長を下げながら、凝固しつづけ、今や人間の魂や霊と共に、地球そのものも下降の輪の底に到達してしまったのです。

地球には現在、成長した魂もあり、再び上昇過程に向かっていますが、多数は依然として、下降物質化の過程を辿っています。これを思う時、我々は寛容と忍耐の必要を覚えるのです。

人類は下降過程の間に、幾多の意識の世界を経て来ています。その間、今日では夢想だに出来ない美と調和の状態に住んでいたことがあります。アトランティス大陸や古代物語の起源はそこにあります。その頃の人間の媒体は

軽く精妙で、魂もまたエデンの園にあるように、清らかで喜びに満ちていました。人々は幼児のように神と交わり、天国の記憶をまだ残していました。

初め人間は聖の聖なる処、即ち、愛と知と力の子宮より生まれました。その頃の人間の魂は、汚れなく純潔そのものでした。しかし、現在の人間は、自己の弱さを克服し、物質を克服し、最後にすべての物を克服することを運命として担っています。これが地上に生を享けたことの意味です。

こう考えると、世界を肩に背負ったアトラスの物語も、大いに意味があります。あれは世界の重荷を肩に背負う人間の魂の姿を画いたものです。その重荷は一人一人の肩の上に置かれています。その重荷は次第に重さを増し、進化の輪の底に至って、ついに魂は重みにうちひしがれてしまいました。そ

の時、魂は故里である美と真実の世界を忘れ去ったように見えます。それこそ、彼が終局において帰って行かねばならない処なのに。

世界の現状は、再び、人間の内にひそむ内的善に向かい、挑戦する状況に入っています。この内的善の刺戟で、人間は顔を天の光の方へ向けるのです。宇宙の一切の秘密は、なお、人間の内部に隠されたまま、彼がその扉を開く日を待っています。

## 二章 光の神秘

人はなぜ、平和な天界を捨てて、地上へ生まれねばならなかったのでしょうか。またなぜもう一度、個々の魂の苦闘努力によって、天界へ戻って行かねばならないのでしょうか。この苦しみと束縛の理由さえ判ったら、人生に弾みも新たな目標も生まれてくるだろうと、皆さんは思ったりしている。

当然のことながら、人間の魂が神の息吹きから生まれ、しかも暗黒の地上へ降下していくには、そこに神の大きな目的があったのです。神の子、人間、その靈性進化のためにしつらえられた神の計画、ついにそれを垣間見る日も

来よう。その時、人は再び天界の縁辺に触れるまでに成長していて、平和と我慢の日々が続いているでしょう。人間の魂に向けられる神愛の深さは、地上の想像を超えていて、とてもここで述べられるものではありません。逆説的に申せば、神はその愛のゆえに、小さな一片の火花である人間を長い旅に出された、と申すべきか。

もし魂が鈍重な物質の中に下降しないとしたらどうでしょう。魂は自己を知ることもなく、内在の力に気付くこともなく、ついには自己神性を悟る時もないでしょう。ここに地上出生の意味を汲みとって頂きたい。ちょうど一粒の種子が地中に播かれ、雨と熱で発芽するように、魂も暗い土の中で目を開くのです。その受ける苦しみ、圧迫と悪、これらに抗しながら、魂は無自

覚から自覚へと進んでいきます。こうして多年の辛酸を経て、人は物質の主となり、自己の主となり、ついには神を知る者となるのです。

人はこの地上生活中に、自己の肉体と感情両面の弱さを克服しなければなりません。これは人間の義務です、それが地上降下の目的ですから。こうして人間が自己の主となる時、ついには自由が生まれ、神的意識に満たされ、地上に在りながら、神と一つに結んだ者となります。

神は宇宙の芸術家です。その御手の中に一大計画が握られています。その計画の美事さ精巧さ。人は辛抱して神に信を置く者とならねばなりません。

## 生命は法則に支配される

人生の不公平に思い悩むことがあつたら、信念をもつて、人生はすべて神愛と神法によつて支配されていることを思いなさい。此の世には不要なもの、でたらめなものは何一つありません。貴方の不公平、そのように見えるのは、貴方がこれから、自分の過去未来を見通す視力を開かねばならない、そういうことです。貴方には至妙の神法の働きが分からない、貴方の目には自分に働く見えない力が見えていない。まことに父なる神の王冠の宝石である貴方、その置かれている立場が一向に判つていない。

喜びといひ苦しみといひ、自分が招いたものを、誰しも避けることは出来ません。人間とは磁石のようなものです。それも、自分自身を自分に引き付



ける磁石です。これは不可避の法です。つまり自分がいつも考えていること、自分が常に行なっている事、それと全く同じものを引き寄せているのです。

このように人生は公正無私の法で支配されている以上、人生に不公正がある筈がありません。皆さんがどんなに疑おうと、他日、目が開かれた時、はつきりと知ります。人生のどんな一つも、自分の魂に影響を与えその目を開くためにあると、また、一切が貴方を神の子として完成させるためにあるということを。古い灰の中から、新しい人生が生まれるのです。不死鳥のシンボルはこれを示しています。古代象徴学では、この神秘の鳥はホワイト・イーグルと呼ばれていました。

完全人、靈師の魂は、その輝き至妙にして目を奪うものがあります。皆さま

んはいわば胎児です。このことを思いやる時、貴方の人生がいかに尊いか、お分かりになりました。

### 奇蹟について

イエスや古代の覚者が行なった奇蹟の数々を、皆さんはご承知のことでしょう。また皆さんの人生にも、奇蹟と呼べるものがあること、これもご承知のとおりです。そうです、奇蹟は存在します。「太初に奇蹟ありき。その如く今日もあり、また明日もあるべし。」奇蹟とは光のもつ力の現われです。この聖光がどのように働きどのように闇を統御するか、これが判ったら、奇蹟がなぜ起こるか、どのようにして起こるかが理解できるに至るでしょう。

覚者は物質の制約を超えています。彼はエーテルと、地水風火を自由に支配できます。たとえば、旧約聖書の三人の預言者は火中を歩きました。東洋には、現に火中を歩く者達がいます。唯物論者はこれを詐術呼ばわりし、せいぜい自己催眠くらいに言っています。しかし現に、彼等は火の中を歩き、無傷なのです。彼等は肉体原子を支配できる段階にまで進歩しているのであって、原子を転換させつつ、熱が伝わらないようにしているのです。

水上を歩くのも全く同じ理屈です。イエスは自分で水上を歩いてみせただけでなく、弟子ペテロの波長を高め、水上を歩かせることも出来たのです。しかし、ペテロの信が揺らぐと彼は沈み始め、主に救いを求めると、直ちに歩行が可能になりました。

これは、イエスが靈覚者の段階に達していたからで、彼は、普通人が肉体を固い塊と見るのに対し、光の合成物と見ていました。この思想があったから、イエスの肉体は軽くなり、水上を歩くことが出来たのです。

覚者の空中飛行も、東洋では珍しいことではありません。同様な事が、ロンドンでも、衆人環視の中で生起しています。まさか、と思う人もあるかもしれぬが、もし人が高い世界へ目を開くことが出来たら、覚者が意のままに肉体を移動させる法則が理解できるでしょう。

人間の身体には、物体を貫通する力が具わっています。イエスは申しました「私がすることを、貴方がたもなすべきである」と。イエスは、いま私共が述べている、全く同じ真理を、世に伝えるために出現したのでした。イエ

スを通じて、輝く靈光がなし得た事は、もし人が法則に従うなら、神の子である貴方がたすべてに実現可能なことです。

さて、この法則について一言しておきましょう。すべて生命には両面があります。陽と陰、建設と破壊、明と暗、善と悪。この両者は対立関係にあります。人はすべてその環境に反応して、動・反動いたします。これを実例で申しますと、真我である人の心は、真理を望み、真理を信じ、天界を、イエス・キリストを、神を信じます。幼児のように、まっすぐに、それが真実であることを感じ、知り、疑いません。ところが、人には反対の面があります。これは地上的な面で、人を墮落にひきいれ、今日信じたことも、明日は崩れてしまうのです。

人が地上に降下した目的は、地上の暗闇の中で、霊が光を発すること。人の霊とは、源初に光を放ったその光と同じものです。初源において、人は光でした。その光は暗闇の中で光を放ちました——その闇とは人の肉体です——地上はこの光を理解しませんでした。本質において、貴方は光です、光の子です。しかし、貴方の肉体は、いわゆる脳髓は、この光のことが分かりません。貴方は、真実の貴方は、いま、肉体と心を通して光を放つために、この二つの変質のために、此処<sup>こゝ</sup>地上に居ます。霊が物質、肉体の統御を完成する時、奇蹟が起こります。物質原子の統御が出来るようになると、霊はどんな原子も意のままに使えるようになります。

以上の変化は、人間的な思想によって出来るものではない。人間の中にあ

る清浄な靈的意識、完全な愛の目覚めによつて可能となるのです。即ちそれは、「私は世の光である」と言った、人間内在の神性、キリストの目覚めです。それはまた申しました、「太初に言葉があつた、言葉は神であつた、言葉は神とともにあつた」「また神は言われた、光あれと、すると光があつた」と。光とは靈的に申せば生命のことです——人間の、あらゆるものの生命のこと。清浄な光は森羅万象の初めです。光は創造の力、万物の基礎です。貴方の身体を、靈的な目で見ますと、美しい光で造られた構造物です。

遠からず科学の進歩につれて、以上のことが明らかとなる時が来るでしょう。今日の段階でも科学は次のように言っています、物質は固いものではない——このことは古代の賢者達には既に分かっていたことですが——物質は

實在とは言いきれない、東洋人がマヤ、即ち幻影と呼ぶものではなからうかと。私共はこう考えています、電子と陽子からなる物質原子は、靈的な目で見ると、陽子の周りに光の分子があります。つまり物質原子の内部には、輝く光がある。この光なくして原子はあり得ない、また世界も存在しないということです。

以上で、簡単ですが、奇蹟の基本についてお話しました。奇蹟とは、人が内部の光を発現させた時起こるものです。この光とは、人の心を清く美しくするものであり、また肉体をもさし貫く実体です。この光は物質の内部にもひそんでいます。靈覚者はこの事実を知っており、奇蹟を起こしました。この光は物質を貫いて光ります、これを動かし、これに栄光を与えます。貴方もこれにより、神に栄光を輝かせるものとなります。



このことは、現在の貴方には力及ばぬことかもしれない、しかし、それが貴方の最後のゴールです。出来ないからといって逃げてはいけない。ひたすら神に近づこうとしなさい。神の光を貴方の全存在に満たしなさい。闇より光へ、地上より天界へと、向上を求めなさい。

重ねて一言しておきます。正しい考え、正しい生活、正しい感情と行為、また自分を裁いても決して他者を裁かない、これによって貴方の肉体原子は浄化されます。その時、貴方には想像を絶した意識の飛躍が起こり、幸福を見ます。それは現世において可能なことです。平和が貴方の心となり、その柔和で優雅な力によって、曲ったものも真つ直ぐになります。

奇蹟の物語には秘められた深い真理があります。それはイエスの教えの真

相を画き出しています。聖書をよくお読みなさい。それから、身のまわりの人間生活を愛の目で見つめることをしなさい。天の無辺について思いをめぐらし、神を愛しなさい。また、内在の光に従い霊の道を歩みなさい。その時、貴方の目には天上の神秘の姿が見えてきます。貴方は奇蹟が生まれる真相を知る者となります。